

No.	16-1-7	場所	豊丘村神稲	次世代への継承キーワード
名称	天竜川の洪水氾濫で被災した民家			避難行動 / 地域コミュニティ
災害現象	洪水氾濫			河川 天竜川本川
補足事項				支流

諏訪市 岡谷市 辰野町 箕輪町 南箕輪村 伊那市 高遠町 長谷村 宮田村 駒ヶ根市 飯島町 中川村 大鹿村 松川町 高森町 豊丘村 喬木村 上村 飯田市 南信濃村 清内路村 阿智村 浪合村 平谷村 下條村 阿南町 売木村 天龍村

概要

本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。

中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。

●体験談：災害当時、豊丘村豊丘北小学校5年生
「ああ、いやだ。」
といて耳をふさいでいた。そしてゴーゴーというたびに、「まったくずれはしないか。家はながされはしないか。」
と思うのだった。

おじいさんは下屋に積んであった木が流されはしないかと家の方に運んでいると、木といっしょに流されてしまった。おじいさんといっしょにいた下の家のひでおおいさんが、おじいさんを助けてくれた。しかしそれと同時に下で防いでいたおとうさんとおかあさんと下の家のおばさんが流された。その時、家にいたおばあさん、あにいさんたちは、えんごのところから逃げた。わたしももう死にものぐるいで水のついているところをぬけて道に出、泣きながらせいし（製糸工場）の方に逃げていくと、市の沢（地名）の人たちがいて、せいしの横の家につれていってくれた。
一後日おとうさんとおかあさんは発見された。
（「濁流の子」p.129より）

記録



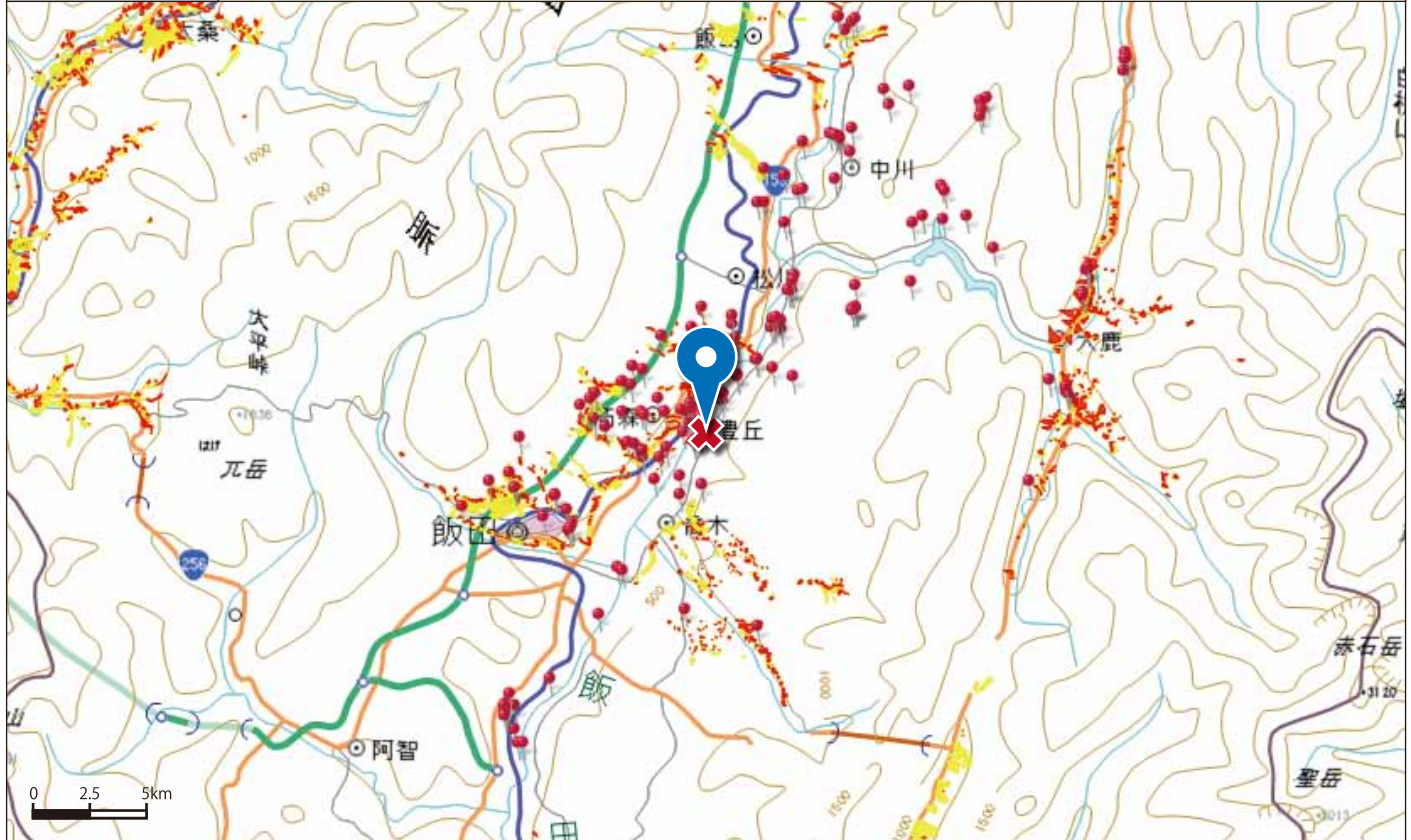
天竜川の洪水で被災した民家

出典	「濁流の子」p.129
備考	概要欄の（ ）は編者が補足説明したものです。

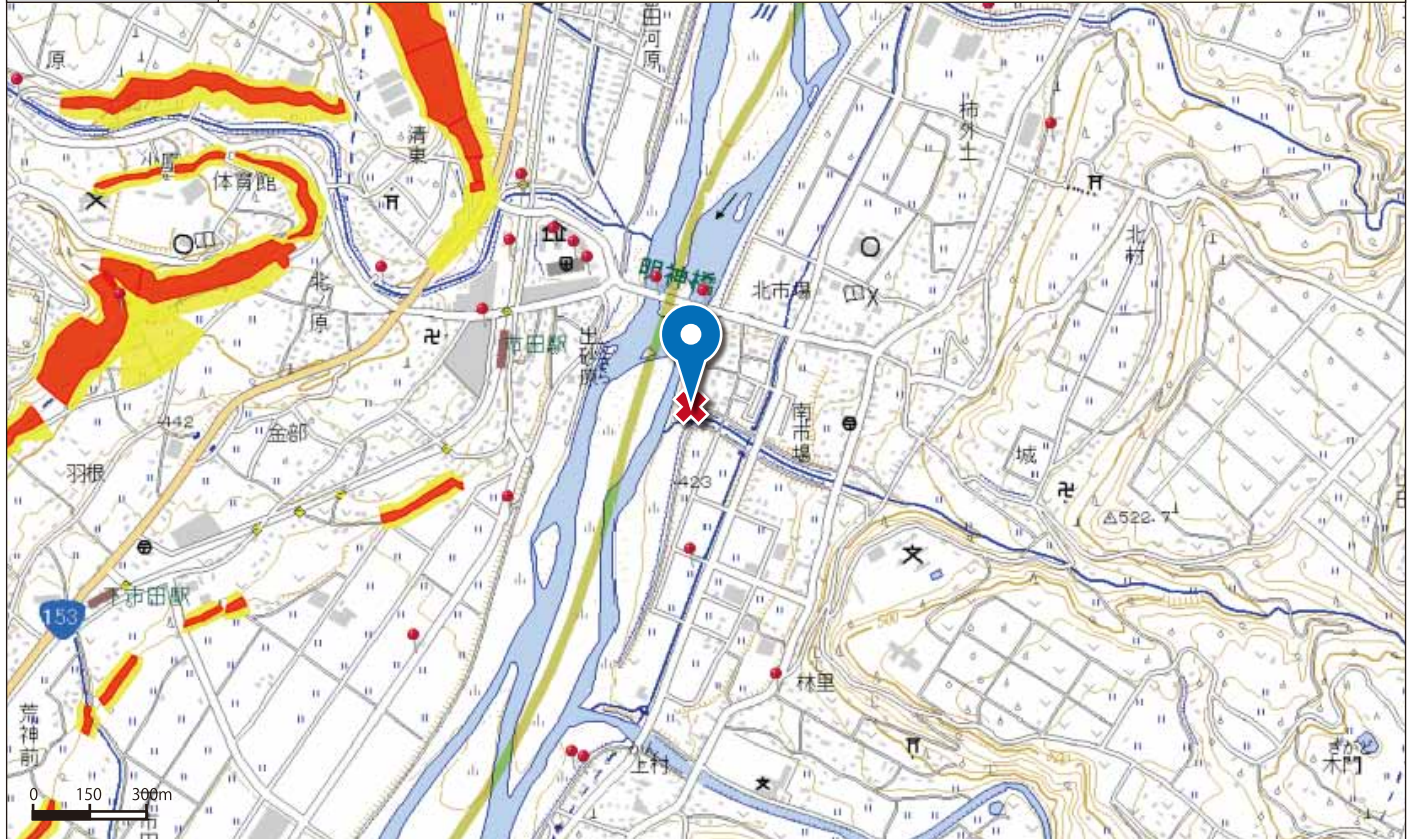
No.	16-1-7	場所	豊丘村神稲	緯度	35.548135
-----	--------	----	-------	----	-----------

名称	天竜川の洪水氾濫で被災した民家	経度	137.891389
----	-----------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。